

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677600126
法人名	社会福祉法人 誠心会
事業所名	グループホーム南松園
所在地	鹿児島県肝属郡錦江町田代川原430-1 (電話) (0994) -25-2364
自己評価作成日	平成28年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎地域との関わりが途切れないように地域住民との交流、行事参加、社会資源の活用を積極的に推進している。

◎介護の重度化が進む中、近隣にあるクリニックと医療面の連携を図り健康で安心した生活を送れるように取り組んでいる。

◎重度化に対応した、環境の整備と介護技術の向上に取り組んでいる。

○開設以来地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域に密着した事業所として、地域の人々から信頼は厚く、施設主催の夏祭りや運動会、利用者作品展等にて多数の家族や地域の方の参加をもらっている。また、日常的に家族や友人の来訪、保育園、幼稚園児との触れ合い、散歩時の地域の方との会話、隣接のデイサービス利用者との交流、家族や地域の方から農産物を頂くなど、馴染みの場や人との関係の継続が図られ、地域の一員として親しく交流がなされている。

○管理者及び職員は、ホームの理念に沿って、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら思いの把握に努め、利用者が住み慣れた地域の中で馴染みの人々と暖かく交流しながら平穩に、その人らしく生きるための支援に努めている。

○管理者は、職員間の協力体制及び利用者・家族との信頼関係の確立が、サービス向上に繋がると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努め、出された課題に対しては速やかに職員全体で話し合っ改善を図っており、職員及び家族等は意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が築かれている。また、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、計画的に各種の研修を実施すると共に、外部主催の研修にも各職員の状況に応じて意欲的に参加できるように配慮するなど、信頼と協力体制を構築した働きやすい職場環境づくりに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念を事業所内に掲げ、職員全員が理解し、日々のサービスに生かすように取り組んでいる。	利用者の意思の尊重と利用者の立場に立った思いやりのあるケアの実施を目標とした理念を作成し、「職員のテーマ」と共に目に付きやすいリビングに掲示している。日々のケアの中や申し送り、職員会議、勉強会等で研修や振り返りを実施して理念の共有と理念に沿った支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや他事業所の行事に参加したり、地域住民とお茶会や手芸を行ったりするなど積極的に交流している。	開設以来、地域との交流に積極的に取り組んでおり、法人の夏祭りや運動会には多くの地域の方々の参加を得ている。また日常的に地域のサロン参加者や保育園、幼稚園児の来訪、園庭での利用者作品展の開催、地域の人と一緒にお茶や手芸を楽しんだり、農作物を頂くなどの関係が築かれていて、これらの交流を利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族や地域の方の来園時などに認知症に関する相談やアドバイスなどを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族、近隣住民や行政の方々の参加の中で、一方的な説明をするのではなく、意見交換できる時間を設け、サービスの参考としている。	家族代表、町担当職員、地域住民、事業所関係者の出席で、年6回定期的に開催している。利用者や事業所の状況報告や改善課題、ヒヤリハットの事例等を報告し、町担当職員からは福祉の制度説明、委員からはケアに関する質問や地域の高齢者の情報等が出されて活発に意見交換している。会議の内容は会議録で情報を共有して、サービスの向上に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者と連絡を取り合う中で、当園の状況を説明する事もあり、また運営推進会議で詳細に伝えている。	町担当職員には運営推進会議に出席して貰うと共に、介護保険の更新や諸手続き及び報告等の際に訪問や電話で相談を行って、助言・指導を頂くなど密に連携を図って利用者のサービス向上に取り組んでいる。また町が主催する会議や研修等にも積極的に参加して情報や意見の交換を行うなど協力関係を築いている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を職員全員が理解しており、研修参加により知識向上を図っている。	身体拘束廃止や権利擁護については、法人全体で計画的に研修を実施している。また、日頃のケアの中や申し送り、職員会議等で随時研修やケアの振り返りを実施して認識を深めており、利用者の言動から思いを汲み取り、利用者の気持ちを尊重したケアに取り組んでいる。特にスピーチロックや言葉遣いについては、職員相互に注意し合い拘束のないケアを実践している	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今のところ外部研修で学ぶ機会はないが、法人内勉強会で研修を行う事がある。全職員は虐待の意識を持っており、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今のところ外部にて学ぶ機会が乏しいが法人内勉強会で研修を行う事があり知識向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書・契約書を利用者様・ご家族の前で説明し十分納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に意見箱を設けている。また面会の際に要望や意見を伺うようにしており、改善すべき事があれば職員会にあげている。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情、所作の見守りで把握に努め、家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話や電話等で、利用者の状況を伝えながら聞き取っている。出された要望等は「引き継ぎノート」で情報の共有を図り、迅速に協議してその人らしさを大切にしたいサービスの改善を図っており、経過や結果については本人や家族にも適切に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議により、意見や提案を聞くようにしており、サービスの改善・環境整備等につなげている。	管理者は日常的に話しやすい雰囲気作りに努めており、意見や提案を業務の中や申し送り、職員会議等で聞き取り、また、状況に応じて個別面談も実施して把握し、出された意見等は速やかに協議して業務やサービスの改善に繋げている。また、勤務シフト作成や外部研修の参加、資格取得についても可能な限り希望にそってバックアップするなど、より良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与規程を整備している。また有給休暇の取得や、休み希望願いなど快く話ができる雰囲気を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験・技量をみながら本人に適した質の高い研修に参加させるよう配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣に事業所が少ないこともあり交流する機会が乏しいが、環境作りを積極的に努めていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、本人の不安な点や要望また今までの生活歴を元に、サービス・生活環境の改善に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族の不安な点や要望を聞くようにし信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、本人や家族の不安な点や要望を聞くようにし、専門職の視点から必要な支援を助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作り・掃除・野菜の収穫などの作業を一緒に行い、常に会話をするように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ月に1回、手紙を送り近況を伝えている。また運動会や1日旅行などの行事の時は参加への呼びかけを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店の利用や入所前に暮らしていた自宅付近のドライブ、また旧友や知人が面会に来られた時はゆっくり話ができるような環境作りに努めている。	本人や家族、関係機関から、これまでの生活歴、家庭環境、地域との交流状況等を聞き取り、情報を共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり話せる場を配慮したり、墓参りや美容室、買い物、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係の継続に家族と連携して支援している。また、遠方の家族とは電話や手紙の取り次ぎで関係性の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに声掛けを行い、利用者みんなで会話できる雰囲気をつくっている。またみんなで楽しめるレクリエーションを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への入所や、病院入院による退所の場合などでも、気軽にホームに遊びに来て頂くよう声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、本人の希望を聞いたり、気づいた点があった場合、記録をしている。	日々のケアの中で思いや希望の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら本人主体の暮しとなるように家族とも連携して取り組んでいる。余暇の過ごし方についても、手芸や菜園の手入れ、園庭の草取り等、可能な限り利用者の意向に添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に本人、家族から聞き取りを行い、生活歴や環境を把握している。またサービス利用の中で気づいた部分は随時記録をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をしている中で、本人の行動の変化や気づいた点があれば随時記録をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、関係職員で意見交換を行い、改善すべき課題や生活環境があればそれを反映させた介護計画を作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向や希望及び医師、薬剤師からの指示等を基に、職員全員で意見交換して利用者本位のきめ細かな介護計画を作成している。計画には各利用者の課題と改善目標等を明確にし、ケアの方法等も詳しく記載されており、カンファレンスやモニタリングを繰り返して利用者の実態に添った改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常生活の中で、本人の気づいた点や変化を随時記録し職員間で情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族のニーズを把握し、専門職の視点から、さまざまな支援、アドバイスをを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者の今までの生活環境の中での地域とのつながりを把握し利用者の要望に応じた地域資源の活用を努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人と家族の意向を尊重しており、適切な意見を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者の病歴や受診経過は十分把握しており、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。通院は家族と職員が協力して同伴し、協力医療機関の往診が月2回行われ緊急時の連携体制も築かれている。通院や往診の結果は電話等で家族と細かに連携を図り情報を共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常生活の中で気になる事や気づいた事を、連携している訪問診療の看護師に伝えている。</p>	/	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>地域の病院担当者と連絡を取り合うようにしている。情報交換や相談を行う事で、円滑な病院利用に努めている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のケアや重度化の対応については利用開始前にホームの方針を説明し、利用者、家族、かかりつけ医、職員と意見交換をしている。</p>	<p>利用開始時に重度化や終末期における介護についての対応を説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医より病状の説明があり、家族の意向に添って可能な限りの介護に取り組んでいるが、終末期の時点で入院への希望が殆んどでこれまで看取りの実施はない。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変、事故発生時に対応できるよう、職員勉強会やマニュアルを整備して迅速に対応できるよう訓練している。</p>	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣の方も参加した火災避難訓練を定期的に行っている。避難マニュアルも定期的に見直している。</p>	<p>年2回は消防署や地域の民生委員の協力を得て火災を想定した避難・消火・通報訓練を行っている。また、自主訓練も年3回、計画的に実施し、隣接の特別養護老人ホームやデイサービスセンターとの協力体制を構築している。スプリンクラーや自動通報装置等の設備の充実も図り点検も適切に実施され、非常時の食料や飲料水、ラジオ、懐中電灯等も備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したサービス、丁寧な声掛けを全職員が意識して行っている。	利用者の人格や誇りを損ねるような言葉かけや対応を行わないために、日々の支援の中や職員会議、勉強会で振り返りや研修を実施して対応の修得に努めている。特に排泄や入浴時の支援及び言葉づかいについては、利用者の気持ちを大事にした適切な対応になるよう取り組んでおり、居室や浴室、トイレ等はプライバシーの確保に配慮した構造となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、利用者の希望や意見を引き出すように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは計画しているが、利用者の意向、体調や状況に合わせて変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や地域の行事への参加の時は化粧を手伝っている。また日常生活での衣服もなるべく本人に選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中で食事の好みなどを聞いている。食事作りや食材の買い物、畑での野菜の収穫など一緒に行うように心がけている。	栄養バランスに配慮しながら、利用者の嗜好や身体状況、季節感を大切にした食事を、差し入れの野菜も活用して利用者と一緒に作っている。おせちやクリスマス会等の行事食のほか、家族同伴のグルメ旅行、園庭での弁当、バイキング方式の昼食、誕生会の希望食、そば作り、手作りのおやつ等、食事が楽しみになるよう工夫し、職員も一緒に談笑しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分・食事量を記録して、利用者の健康状態の変化が早期に分かるようにしている。また施設の管理栄養士に助言をもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや、入れ歯洗浄の声掛けをして利用者の状態に応じて手伝いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の声掛けや、トイレ誘導をして、なるべくオムツに頼らないよう支援している。	利用者の見守りや排泄チェック表を活用して、それぞれの排泄パターンの把握に努め可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者個々に合った介護用品の工夫やケアの方法を話し合い介護計画に反映させて支援しており、トイレ誘導や汚した衣服の交換に際しては、特にプライバシーに配慮した対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状況を記録しており、便秘の方には水分の摂取方法の工夫、施設の管理栄養士から便秘予防食材の助言をもらい食事内容の参考にしている。	/	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	計画的な入浴をおこなっているが、希望や体調等に合わせて臨機応変に入浴できるように支援している。また重度化に対応した介護の工夫や環境整備に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な一日の流れは計画しているが利用者の体調や意向などに合わせて変更している。また利用者の好きな時間に休めるように支援している。	/	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を適切に服用できるようホームにて管理している。また処方箋を整理して、いつでも職員が内容を確認できるようにして随時、薬剤師からの助言指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に家族、利用者より生活歴や趣味などの情報をもとにその人に合った役割をお願いしている。また趣味も楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望を尊重した、ドライブや遠足、買い物等の外出支援を行っている。また家族の方の協力を頂いて自宅への外出、宿泊などができるように支援している。	利用者の健康状態や天候に配慮しながら、本人の希望に沿って、また家族とも協力しながら日常的に散歩や、園庭でのお茶、ミニドライブ・花見、墓参り・買い物・一時帰宅、季節毎の花見などに出かけて地域の人と交流するなど、可能な限り楽しく外出できるように工夫しており、利用者の身体能力に応じて、車椅子スロープ車や車いす等も適切に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活では使用する機会がないが、外出やショッピングでは一人ひとりがお金を所持し、好きなものを買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望があれば電話や手紙のやり取りを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように、シンプルなりビングとしている。また季節感を感じられるような飾り付けの工夫をしている。	利用者が一日の多くの時間を過ごすリビングは、温度や湿度・清潔感などにも十分配慮され、季節の花や手作りの作品・行事等の写真などが飾られて居心地良く過ごせるように工夫されている。広い園庭には季節の花や多くの野菜が栽培されて利用者は四季を感じながら手入れや収穫を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士でゆっくりと会話やテレビを楽しめるようにソファの配置などの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して、自宅で使用していた馴染みの物や、写真・装飾品などを持ってきて頂き利用者が安心して暮らせる居室となるよう配慮している。	各居室は余裕のあるフローリング仕様で、ベッド、エアコン、クローゼットが備えてある。家庭と同様に落ち着いて過ごせるように本人や家族の希望で仏壇や家族写真、使い慣れた整理棚、食器、小物等を自由に持ち込んで和やかな空間となっている。清掃や整理整頓も十分で衛生的で寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安心して生活できるよう、建物内部の配置の工夫をしたり、その人の「できる事」「わかる事」に合わせた声掛けを行うように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない